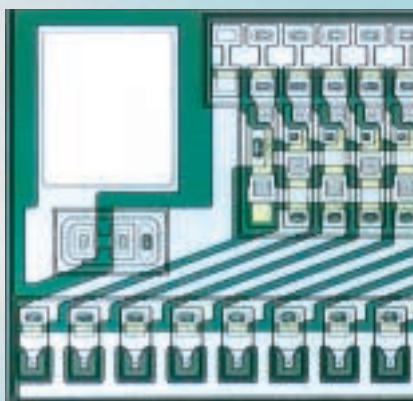


株主の皆様へ

第138期 中間報告書

平成15年4月1日～平成15年9月30日



表紙の写真：光半導体（SLED）

LED（発光ダイオード）と駆動回路を同一チップ上に集積した製品で、複写機やプリンターのプリントヘッドに採用されています。当社が世界で初めて開発した製品です。

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第138期上半期（平成15年4月1日から平成15年9月30日まで）を経過いたしましたので、ここに当上半期の営業の概況をご報告申し上げます。



平成15年12月9日

日本板硝子株式会社

社長 **土原洋三**

営業の概況

当上半期における我が国経済は、年初のイラク戦争やアジアでの新型肺炎の流行などによる混乱から脱し、株価の上昇や一部経済指標の好転が見られるなど、徐々に景気の持ち直しの期待が高まっています。

当社関連需要につきましては、建築分野では、非居住用建築着工床面積、新設住宅着工戸数とも前年同期を下回ったものの、一般住宅の複層ガラスの比率は増加しています。自動車分野では、国内生産台数が、前年同期を若干下回りました。情報電子分野では、世界のパソコン出荷台数は増加しましたが、北米の光通信設備投資は依然として低調に推移しています。

このような状況の下、当社は全社を挙げて収益改善に取り組んでまいりましたが、当中間期の業績は以下のとおりとなりました。（括弧内の数字は前年同期比を示しております。）

売上高	844億47百万円	(4.2%減)
経常損失	16億27百万円	(－)
中間純損失	12億24百万円	(－)

当期の中間配当につきましては、厳しい事業環境の中、当期の業績見通しなど慎重に検討いたしました結果、見送らせていただくことと

たしました。株主の皆様には、誠に申し訳なく存じますが、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

部門別の状況は次のとおりであります。

<板ガラス部門>

建築用ガラス事業の売上高は、複層ガラスなど高機能ガラスの出荷が増加して前年同期を若干上回りました。また、自動車用ガラス事業の売上高は、納入数量が減少して、前年同期を下回りました。この結果、板ガラス部門全体の売上高は、前年同期比0.5%減の505億8百万円となりました。

<情報電子部門>

光関連事業の売上高は、光通信用レンズが依然低迷しているものの、複合機能プリンター用光部品を中心に増加したことにより、前年同期を大きく上回りました。また、ガラス磁気ディスク事業の売上高は、デスクトップパソコン向けディスクの生産が昨年上半期で終了したことにより前年同期を下回りました。ディスプレイ事業の売上高は、中国での携帯電話の在庫調整の影響により前年同期を下回りました。この結果、情報電子部門全体の売上高は、前年同期比7.3%増の178億16百万円となりました。

＜ガラス繊維部門＞

ガラス繊維部門の売上高は、タイミングベルト用ゴムコード、バッテリーセパレータなどの特殊ガラス繊維製品群では前年同期を上回りましたが、昨年8月に営業譲渡を実施した長繊維事業の売上高減少のため、全体としては前年同期を下回りました。この結果、ガラス繊維部門全体の売上高は、前年同期比24.2%減の80億59百万円となりました。

＜その他部門＞

サッシなど建材事業の売上高は、介入販売を縮小させた影響により前年同期を下回りました。その他部門全体の売上高は、前年同期比21.0%減の80億64百万円となりました。

下半期の見通しにつきましては、国内の景気は底離れの様相を見せているものの回復の力は弱く、また最近の急速な円高の進行などもあり、今後の情勢は依然不安定な状況が続くものと考えられます。

当社関連需要では、建築、自動車分野では各指標は概ね横ばいであり、情報電子分野ではパソコンなどの民生用IT関連商品は堅調に推移するものの、北米の光通信設備投資は依然として低迷するものと予想されます。

当社といたしましては、2004年度までの中期

経営計画後半2年間の「ACT 21 2nd Stage」を推進して目標達成を目指してまいります。

板ガラス部門では、徹底したコスト削減を進めると同時に、リフォームローン制度の提供や、防犯機能を備えた真空ガラス、超高性能の断熱複層ガラスなどの新商品投入により、引き続き拡販に努力してまいります。

情報電子部門では、ディスプレイ事業は、プラズマ・ディスプレイ用ガラス基板、中小型液晶用ガラス基板の拡販に注力いたします。光関連事業は、複合機能プリンター、高精度カラープリンター市場へ積極的に事業展開を図ります。また、磁気ディスク事業の譲渡など、採算性の向上に向けて引き続き努力をしてまいります。

ガラス繊維部門では、特殊ガラス繊維での「ナンバーワン、オンリーワン」の戦略をより一層強化し、新商品開発のスピードアップやグローバル展開による拡大発展を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(注)この中間報告書では、百万円単位の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

平成15年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	363,511
流 動 資 産	128,820
現 金 及 び 預 金	39,098
受 取 手 形	4,343
売 掛 金	42,613
製 品 及 び 商 品	12,471
仕 掛 品	4,669
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	4,588
繰 延 税 金 資 産	1,486
そ の 他 の 流 動 資 産	20,734
貸 倒 引 当 金	△ 1,184
固 定 資 産	234,690
有 形 固 定 資 産	75,853
建 物	29,501
構 築 物	2,236
機 械 装 置	22,905
車 輜 運 搬 具	59
工 具 器 具 備 品	2,910
土 地	13,045
建 設 仮 勘 定	5,194
無 形 固 定 資 産	2,339
施 設 利 用 権 等	2,339
投 資 そ の 他 の 資 産	156,497
投 資 有 価 証 券	78,998
子 会 社 株 式	72,130
長 期 貸 付 金	7,527
長 期 前 払 費 用	717
そ の 他 の 投 資 金	1,231
貸 倒 引 当 金	△ 4,108
合 計	363,511

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	184,561
流動負債	99,004
買掛金	31,529
短期借入金	30,237
一年内償還社債	19,791
未払金	2,864
未払法人税等	25
未払消費税等	99
未払費用	5,355
預り金	6,685
賞与引当金	1,263
その他の流動負債	1,151
固定負債	85,557
社債	39,600
長期借入金	17,538
退職給付引当金	9,088
役員退職慰労引当金	589
修繕引当金	8,028
繰延税金負債	10,612
その他の固定負債	100
資本の部	178,949
資本金	41,060
資本剰余金	49,556
資本準備金	49,556
利益剰余金	66,827
利益準備金	6,376
特別償却準備金	17
固定資産圧縮積立金	4,918
特別積立金	44,977
中間未処分利益	10,537
株式等評価差額金	21,658
自己株式	△ 153
合 計	363,511

損益計算書

自 平成15年4月1日
至 平成15年9月30日

経常損益の部		百万円
営業損益の部		
営業収益		84,447
売上高		84,447
営業費用		84,435
売上原価		69,684
販売費及び一般管理費		14,751
営業利益		12
営業外損益の部		
営業外収益		3,078
受取利息及び配当金		1,725
雑収益		1,353
営業外費用		4,717
支払利息		934
雑損失		3,783
経常損失		1,627
特別損益の部		
特別利益		9,306
固定資産売却益		49
投資有価証券売却益		5,631
関係会社株式譲渡益		2,366
厚生年金基金代行返上益		1,259
特別損失		8,100
固定資産除却損		526
投資有価証券評価損		24
関係会社整理損		4,568
関係会社株式譲渡損		2,981
税引前中間純損失		421
法人税、住民税及び事業税		235
法人税等調整額		568
中間純損失		1,224
前期繰越利益		11,761
中間未処分利益		10,537

貸借対照表及び損益計算書の注記事項

1. 貸借対照表の注記

- (1) 子会社に対する短期金銭債権……………30,635百万円
子会社に対する長期金銭債権……………7,305百万円
子会社に対する短期金銭債務……………19,327百万円
- (2) 有形固定資産の減価償却累計額……………166,397百万円
- (3) 担保に供している資産
有形固定資産……………84百万円
- (4) 保証債務……………21,756百万円
- (5) 役員退職慰労引当金は商法施行規則第43条の引当金である。
- (6) 修繕引当金は商法施行規則第43条の引当金である。

2. 損益計算書の注記

- (1) 子会社に対する売上高……………27,488百万円
- (2) 子会社からの仕入高……………27,393百万円
- (3) 子会社との営業取引以外の取引高……………759百万円
- (4) 1株当たりの中間純損失……………2円76銭

(ご参考) 連結貸借対照表

平成15年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	462,846
流 動 資 産	171,625
現金及び預金	53,614
受取手形及び売掛金	60,619
棚卸資産	38,930
繰延税金資産	2,149
その他の流動資産	17,362
貸倒引当金	△ 1,050
固 定 資 産	291,220
有形固定資産	141,334
建物及び構築物	51,275
機械装置及び車輛運搬具	51,011
工具器具備品	4,244
土地	29,474
建設仮勘定	5,329
無形固定資産	5,504
その他の無形固定資産	5,504
投資その他の資産	144,381
投資有価証券	133,983
長期貸付金	3,065
長期前払費用	2,119
繰延税金資産	2,911
投資その他の資産	4,754
貸倒引当金	△ 2,453
合 計	462,846

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	258,850
流動負債	149,307
支払手形及び買掛金	38,937
短期借入金	69,787
一年内償還社債	19,791
未払金	3,389
未払法人税等	1,805
未払消費税等	609
未払費用	3,888
預り金	4,804
賞与引当金	2,579
繰延税金負債	1,463
その他の流動負債	2,251
固定負債	109,543
社債	39,600
長期借入金	35,285
退職給付引当金	12,715
役員退職慰労引当金	880
修繕引当金	8,042
連結調整勘定	263
繰延税金負債	10,844
その他の固定負債	1,910
少数株主持分	9,541
資本の部	194,454
資本金	41,060
資本剰余金	50,371
利益剰余金	86,910
その他有価証券評価差額金	21,800
為替換算調整勘定	△ 5,535
自己株式	△ 153
合 計	462,846

(ご参考) 連結損益計算書

自 平成15年4月1日
至 平成15年9月30日

経常損益の部		
営業損益の部		百万円
営業収益		132,029
売上高		132,029
営業費用		129,841
売上原価		100,446
販売費及び一般管理費		29,394
営業利益		2,187
営業外損益の部		
営業外収益		3,266
受取利息及び配当金		887
持分法投資利益		135
雑収益		2,243
営業外費用		5,447
支払利息		1,779
雑損失		3,667
経常利益		6
特別損益の部		
特別利益		8,851
固定資産売却益		296
投資有価証券売却益		5,631
関係会社株式譲渡益		1,663
厚生年金基金代行返上益		1,259
特別損失		5,391
固定資産除却損		1,314
投資有価証券評価損		24
関係会社株式譲渡損		2,347
関係会社整理損		1,705
税金等調整前中間純利益		3,467
法人税、住民税及び事業税		1,870
法人税等調整額		1,012
少数株主利益(減算)		218
中間純利益		365

会社の概要

平成15年9月30日現在

設立	大正7年11月22日
資本金	41,060,961,370円
発行済株式総数	443,946,452株
1単元の株式の数	1,000株
株主数	57,482名

営業品目

(板ガラス部門)

フロート板ガラス	網入線入磨板ガラス
熱線吸収板ガラス	熱線反射ガラス
高性能熱線反射ガラス	強化ガラス
倍強度ガラス	合わせガラス
複層ガラス	真空ガラス
防火ガラス	型板ガラス
網入線入型板ガラス	鏡
装飾ガラス等	

(情報電子部門)

- 光製品 (セルフオックレンズアレイ、セルフオックマイクロレンズ、光部品等)
- ファインガラス製品 (超薄板、透明電導ガラス等)
- 産業用ガラス製品
- LCD製品
- ガラス磁気ディスク等

(ガラス繊維部門)

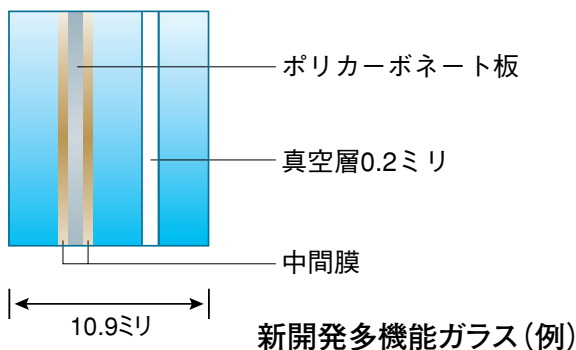
- ガラス繊維及び関連製品等

(その他部門)

- サッシ及び建材
- 店装材等

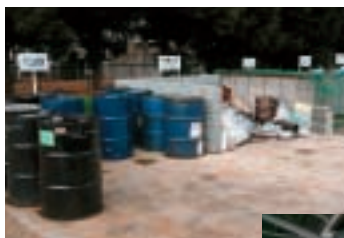
TOPICS

トピックス



防犯・断熱を兼ね備えた 新機能ガラスの発売

当社は、真空ガラス「スペーシア」の技術を応用した多機能ガラスの開発に成功し、試験販売を開始しました。3枚のガラスの間に真空層と樹脂層を設けた薄型多層構造により、断熱・防犯・防音などの機能を1枚ガラスのサッシに装着可能な薄さで実現した画期的な商品です。また、従来品と比べ、防犯性能を向上させるとともに耐炎性能にも優れた防犯ガラス「セキユオHG」も発売しました。今後もお客様の様々なご要望にお応えする商品の開発に取り組んでまいります。



京都、筑波でゼロエミッション達成

当社の京都工場と筑波研究センターは、板ガラス製造業界では初めてのゼロエミッション（埋立廃棄物ゼロ）を達成しました。各製造工程で発生する廃棄物を減らすとともに、徹底的な分別活動、資源の有効活用などの努力をした結果、実現に至りました。他の事業所も2006年度までにゼロエミッションを達成することを目標として取り組んでいます。環境と調和した企業活動を基本として、健全で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

取締役及び監査役

平成15年11月14日現在

日本板硝子株式会社

社 長	出 原 洋 三
副 社 長	阿 部 友 昭
専務取締役	真 鍋 征一郎
専務取締役	木 戸 雄 二
常務取締役	永 井 勲
常務取締役	藤 本 勝 司
常務取締役	仁 田 昌 邦
取 締 役	田 中 瞳 吾
取 締 役	近 藤 敏 和
取 締 役	倉 内 憲 孝
常勤監査役	横 川 武 史
常勤監査役	一 戸 清 彦
監 査 役	内ヶ崎 功
監 査 役	大 井 尚 一

株主メモ

決 算 期
毎年 3月31日

定 時 株 主 総 会
毎年 6月

株主確定基準日
定時株主総会・利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
そのほか必要あるときはあらかじめ
公告した一定の日

名義書換代理人
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所
住友信託銀行株式会社
証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

(郵便物送付・電話お問合せ先)
住友信託銀行株式会社
証券代行部
東京都府中市日鋼町1番10
〒183-8701

(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
(その他のご照会) ☎ 0120-176-417

同 取 次 所
住友信託銀行株式会社
本店及び全国各支店

公 告 の 方 法
日本経済新聞に掲載する。
ただし、商法特例法第16条第3項に
定める貸借対照表及び損益計算書に
係る情報は、<http://www.nsg.co.jp>
において提供する。

会 計 監 査 人
新日本監査法人

◎ NIPPON SHEET GLASS CO., LTD.